

第56回 地域とつながり、存在を知ってもらうには？

皆様の事業所は違うかもしれませんが、世間では「障がい者の施設は世間と隔絶していて、外からはよくわからないし、近づきがたい。」と感じていることがあります(・_・;)。地理的にあえて人里から離して建設された施設もありますし、利用者や職員の意識が世間から離れているという指摘もあるかもしれません。社会福祉法人やNPOといった組織形態が、株式会社などからなる経済社会になじまないと思われることもあります。

一方、積極的に就労支援などを進める事業所は、このような見方に抗するかのよう、外の世界になじもうと努力してきました。全てネットで売ったりでもしていない限り販路開拓には地元とのつながりが必要になりますし、一般就労への移行など色々なシーンで地域とのかかわりが活きるからです。コロナ禍で社会的なつながりが弱くなっている時代だからこそ、自分たちから外にアプローチしてゆく必要があるとも言えます。

では、もしあなたの事業所が今まで世間とのつながりが薄かったとして、これからどのように外の世界にアプローチしていけばよいのでしょうか？

例えばですが、商工会・商工会議所などなどの経済団体等に参加し、その活動に参加したり、役員や経営指導員等と話す機会を持つことです。すぐにリターンがあるわけではありませんが、そうしたつながりがいずれ何かの話につながるがありますし、一般企業の考え方を理解するチャンスにもなるでしょう♪。

また例えば、(今は中止になっていることも多いですが) 商店街や町内会のイベントなどに出店(出展)すれば、地域の人に存在を知ってもらう機会になります。売るものがなければ、歌や楽器が得意な利用者・保護者・職員を集めて音楽パフォーマンスをやるとか、被災地支援の募金活動をするとか、他の方法で目立つこともできます(・v・)。

以上は、あくまでイメージ例にすぎません。保護者や理事の方の中は、ご自身が広い社会的つながりを持っている人もおられるでしょう。地域の事情を調べ、事業所の中で議論し、様々な方法で世間とつながる方法を考えてみてはいかがでしょうか。

なお、「地域とつながる」については、『「工賃向上計画」策定・実現ノウハウ集 第二部 実現へのノウハウ (平成27年度改訂版)』10ページ以下でもご説明しております。

<http://www.shougai-syuuro.jp/upload/2015050814310759812.pdf>